



県内の卒業生の事業所を訪ねて

被服科卒 島内さん



被服科卒 菊永さん



産業工芸科卒 山田さん



産業工芸科卒 福山さん



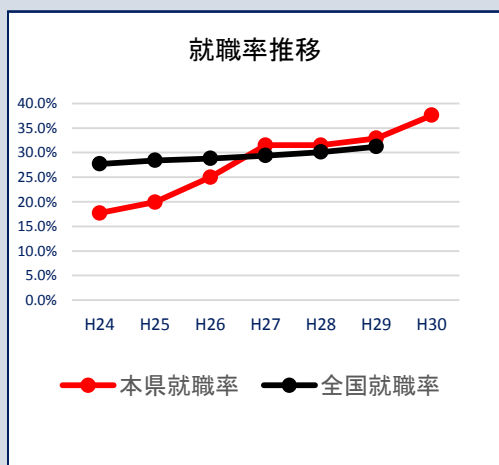
被服科卒 松永さん



理容科専攻科卒 木本さん

6月上旬に、本校を卒業し県内の事業所で就労している卒業生を訪問しました。理容店に勤務している木本さん以外は、就労継続支援A型及びB型の福祉事業所で働いています。長い卒業生で5年目を迎えており、明るく元気に頑張っている様子でした。全員がやすむことなく、真面目に取り組んでいるとのことでした。中には、責任者として他の利用者の仕事の割り振りなどを担当するなど、年月が経ち各自がキャリアアップしている状況を聞き、うれしく感じました。また、今年度の卒業生もそれぞれの職場で研修を終え、正式な職場へ配属され、頑張っていると聞いています。全員が健康で、自立した社会人になってほしいと切に願います。

特別支援学校卒業生の進路状況



近年、特別支援学校の就職率は向上しています。特に本県は平成27年度から全国平均を超えている状況です。これは、鹿児島高等特別支援学校の開校や特別支援学校就労支援・スキルアップ推進事業などの影響が大きいと言われています。また、法定雇用率の改定も要因の一つです。就職とは一般企業と就労継続支援A型への就労を指します。特にA型就労が増えてきています。雇用契約を結ぶことで最低賃金が保障される反面、仕事に対する責任も重くなります。仕事に耐える体力や忍耐力などはもちろんですが、協調性やコミュニケーション力も必須です。会社はチャレンジ精神をもつ意欲のある人を求めています。

高等部保護者進路学習会

日曜参観日に高等部保護者及び職員の進路学習会を行いました。今回は、主に福祉就労の種類や就労までの流れなどについての内容でした。B型事業所へ就労するための移行支援事業所でのアセスメント実習やA型事業所との雇用契約など、福祉就労における基本的なことを学ぶ良い機会となりました。また、自動車関連企業で就労している聾者のインタビューや就労状況の動画を視聴するなど充実した学習会でした。今後は、他学部でも行いますので、多くの保護者に参加をお願いいたします。



進路保障について

《全国高等学校統一応募用紙》

全国高等学校統一応募用紙とは、就職差別をなくし、子供たちの進路を保障するために厚生労働省・文部科学省・全国高等学校長協会が協議し、1973年に定めた就職用の履歴書様式です。それ以前は、社用紙といわれる会社に都合のよい書式が使われ、信条・家族関係・収入など生徒自身に関係のない事項もありました。現在は、生徒情報のみの記載になっており、保護者氏名の欄がありません。このように生徒に責任のない事項を削除し、公平な選考をできるように取り組んでいます。

ある投稿から～聾者を採用している職場での出来事～

聴者（A）は、聾者（B）に連絡事項をメモで渡した。

メモ内容：「3時10分前になったら私を呼びにきてください。

そのあと次の仕事を一緒にやりますのでその時になったら教えます。」

聴者A：「Bさんは3時過ぎてから迎えにきた。その後の予定が狂った。」

聾者B：「3時8分頃迎えに行ったら、叱られた。」

聴者（A）は、聾者（B）に作業の説明をしている。Bはうなずいている。

聴者A：「最後にわかったか。」と聞いたらBさんはうなずいた。

聾者B：「説明しながら、こっちを見るので相づちをした。」「迷惑そうにしていたから、つい」「わからないところもあったが、確認できるような雰囲気ではなかった。」

お互いの確認不足、思い込み、誤解のまま事が進んでいく状況は大変危険であり、阻止するためにも状況により面談を行っています。両者の言い分を聞き、誤解を解き、今後うまくやっていけるように取り組んでいます。聴者同士でも同じようなことがあります。同じ職場で働くもの同士、お互いを理解しながら、共同作業をしていくことが大切です。